

令和四年版「禪の暦」カレンダー紹介

曹洞宗福島県青年会では、昭和五十七年より檀信徒への布教教化の環としまして「禪の暦」カレンダー発行事業を通じ、これまで多くの人々に禪の教えを広めまいりました。

令和四年版のカレンダーでは、「祈り」をテーマとし、詩人のことばに福島県内の美しい写真を添えて制作いたしました。詩とは、それそのものに作者の祈

りが込められたことばです。「読し、読む人の大切な誰かを思い浮かべていた」だいたい、そして、祈る(手を合わせる)という日常底のいとなみに意味付けがなされることによる信仰の深まり、さらには、禪も祈りもどこか遠くにあるものではなく、私たちの暮らしのなかにあるのだという気づきをお伝えできればと願っております。

本カレンダーは、奇しくも、東日本大震災から十年目を迎えた年に本格的な製作を行いました。風化と言われて久しい昨今ですが、私たち福島に生きる青年僧侶として、微力ながらも、復興途上の福島の景色を切り取ることで、「忘れないでほしい」という想いも込めたつもりです。

なお、この事業は当青年会の布教活動として行っており、お預かりしました喜捨金は、県内外の慈善活動団体への寄付金、子どもたちへの保養活動、災害等の御見舞金として大切に役立たせていただきます。

末筆ながら、この度の新型コロナウイルス感染症で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、罹患された皆様の早期快復一日でも早くこの事態が終息することを、祈念申し上げます。

合掌



撮影 須賀武雄
曹洞宗福島県青年会

曹洞宗福島県青年会会報

第110号

21.09.30

精進



● 目 次	1
● 会長挨拶	2
● 贊助芳名簿 / 出向者紹介	3
● 令和二年度事業報告書・収支決算書	4
令和三年度事業計画書・収支予算書	5
● 佛教とSDGs	6・7
● 一寺院一事業	8・9
● 支部だより(県北・県中・県南・相双・いわき・会津)	10
● 僧見聞録・編集後記	11
● カレンダー紹介	12

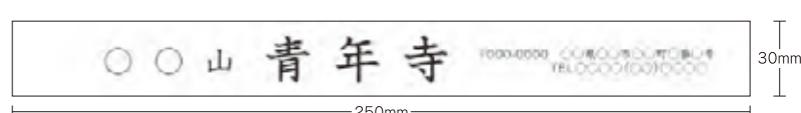
曹洞宗福島県青年会会長
矢内 大丘 九拝
同カレンダー委員会委員長
佐藤 正乗 九拝
九拝

合掌

申込み事項

- カレンダーは、1部250円です。(全頁フルカラー印刷、縦53cm 横38cm 大判7枚)
- カレンダーのご注文は、10部単位でお申し込み下さい。
- 送料は一律1,000円(税込)。
- 名入れ注文は50部以上一律10,000円(税込)の別料金にて受け賜ります。名入れは下記の活字体で山号・寺号・住所・電話番号等をお入れ致します。また、指定原稿(自筆・その他)の場合は下記の寸法に合わせて原稿作成の上、お申し込みハガキと共に封書で下記事務局にお申し込み下さい。
- 書体のみの指定(例:ゴシック体)がありましたら
通信欄に記入願います。
- 下記にお問い合わせ後、パンフレットに専用のFAX用紙及びハガキを同封してお送りいたします。

問合せ先 〒963-8583 福島県郡山市田村町山中字日照田45
東北工業株式会社内 カレンダー受付係 担当:田村
TEL:024(953)6474 FAX:024(955)5538



会長挨拶

矢内 大丘

秋涼の候、一雨ごとの気温の変化に、秋の深まりを感じる時節となりましたが、青年会会員の皆さまにはご健勝のこととお慶び申し上げます。県内ご寺院の皆さま方には平素より青年会活動にご理解ご協力いただきまして誠にありがとうございました。心から御礼を申し上げます。



昨年より続く新型コロナウイルスの感染拡大がまだ大きな影響を及ぼし続けています。感染のさらなる防止の観点から、本年度の定時総会は書面決議の形とさせていただきました。青年会の会員の皆さまには、困難な状況の中、会の円滑な運営にご協力いただきまして本当にありがとうございました。書面決議をもちまして総会案をご承認いただきましたので、昨年度よりの懸案事項であります税理士との顧問契約につきまして、去る令和三年六月九日に鈴木文弘税理士事務所の鈴木文弘先生と正式に委嘱契約を締結いたしました。

委嘱範囲の中には、曹洞宗福島県青年会全体に関するコンサルティングとともに、「曹洞宗福島県青年会会員個別の各寺院で、その寺院の税務上の問題点等質問する場合の税務相談」という内容も入れさせていただきました。青年会会員の皆さまのお寺の税務上の問題点について、税理士の先生と直接相談することができますので、是非活用していただきたくお願いいたします。詳しい内容や連絡先などは青年会事務局までお問い合わせください。

本年は梅雨末期に続き、お盆の最中にも全国的に雨が降り続き、洪水や冠水などの被害が各地で発生しています。

「(世のなかを)まさに 泡沫 と 見よ
まさに 陽炎 と 見よ
かくのこ 世のなかを 観ずるひとは
死王もかれを 見ることなし」

『ダンマパダ・法句經』(124頁 三枝充惠訳 青土社)より
お釈迦様がこのように『法句經』でお示しになつてます。福島県でも僅か一年前に甚大な被害を受けたばかりで、いまだにその復旧工事が行われている現状であるにもかかわらず、今年の大震により復旧工事箇所が流されてなくなっているのを見るにつけても、人間の存在の小ささと自然の偉大さ、災害の恐ろしさに言葉を失うばかりです。

「人身 得ること 難く
死の運命ある ひとに 命あること 難し
正法を 聞くこと 難く
もうもろの ほとけ (世に)現わること 難し
『ダンマパダ・法句經』(132頁 三枝充惠訳 青土社)より

お釈迦様はこのようにもお示しになっています。まさに今の状況を表している言葉のように思います。新型コロナウイルス感染拡大や災害が多発する世界、ともすれば、言葉という鋭い刃で人が人を互いに傷つけ合うこの不安や恐れのつきないこの世界だからこそ、宗教者としての僧侶が求められ、その生き方が問われています。青年会の会長に就任させていただいてから一年半が経ちました。残り半年という短い期間にはなりますが、このこの状況下だからこそできるることを、そしてよりよい形でこの会を次の会長に引き継ぐことができるよう、精一杯務めさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

賛助芳名簿

令和元年度

会津若松市	喜多方市	伊達郡	西白河郡	本宮市	会津若松市	郡山市	伊達市	福島市	石川郡	いわき市	福島市	白河市	田村郡	須賀川市	大沼郡	鹿沼郡	天沼郡	天沼郡
泰宝秀常天恵	安勝徳昌久同大示	常泉藏寺	大龍寺	大石寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	院	寺	寺	寺	寺	寺	寺
寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺
寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺
寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺

令和2年度

令和元年1月24日～令和2年3月31日

会津若松市	郡山市	伊達市	福島市	白河市	田村郡	須賀川市	大沼郡	鹿沼郡	大沼郡	天沼郡								
寺	寺	寺	寺	院	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺
寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺
寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺
寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺	寺

出向者紹介

氏名
村上 徹信



役職
全国曹洞宗国際特別委員
全日本佛教青年会WFBY出向員
世界佛教徒青年連盟(WFBY)会計次長
生年月日：1982年1月23日
所属寺院：醫王寺
所属支部：いわき支部

氏名
内藤 宏信



役職
全国曹洞宗青年会
災害復興支援部アドバイザー
生年月日：1981年5月13日
所属寺院：大龍寺
所属支部：県南支部



色を選んでオリジナルTシャツを作りました。みんな違う特色があり、「一人ひとりかけがえのない存在である」というメッセージを込めたプログラムです。また、「組んでバラせる木のジャングルジム」という企画もいい学びになりました。自然に帰る「木材」という材料は「十五・陸の豊かさも守ろう」を考えるきっかけとなり、組み立ててもまた解体して何度も使える点は、「十二・つくる責任つかう責任」に通じる再利用や持続可能性。そして、みんなで協力しなければ組み立てられないところは「十七・パートナーシップで目標を達成しよう」そのものです。

このように、遊びの中からでもSDGsに紐づけて捉えていくと、その先にある世界の問題がぐっと身近に感じられるから不思議です。子どもたちの「私のSDGs宣言」がそれを物語ります。



仏教とSDGs ～お寺でSDGs始めました～

長照寺 住職 楠 恭信

SDGs(エス・ディー・ジー・ズ)。これは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、二〇一五年の国連サミットで採択された国際社会共通の目標です。十七の大好きな目標と、それらを達成するための百六十九のターゲットで構成されており、二〇三〇年までに達成すべく全世界で取り組まれています。近頃は、十七色のドーナツ型のロゴもいたるところで見かけるようになってきました。そして何より、曹洞宗としてもSDGsへの取り組みを推進しておりますので、否が応明記されていますので、否が応でも意識している方が多いことと思います。

私は思いがけずこのSDGsと関わることになりました。

二〇一九年、(公社)日本青年会議所東北地区福島ブロック協議会で副会長を務めること

となつたのですが、その担当が福島県内におけるSDGsの普及だったのです。当時はまだまだ浸透しておらず、まずは学校、イベントなど、県内様々なところに出向いてSDGsの普及からでしたので、一から勉強し、自分の中に落とし込んでいく必要がありました。かくして、自身も全く知識がないところでも、自身の中に落とし込んでいく必要があります。かくして、自分の中に落とし込んでいく必要がありました。かくして、SDGsについて学び、紐解いていくと、「限りある資源を大切に使う」「自分がことにして考える」など、まさに仏教の考え方、禅の思想に通ずるものだと納得するに至りました。

そこで、布教教化においてもSDGsを絡める取り組みを始めました。例えば二年前の子ども坐禅会では、参加者が好きな

「電気や水を大切に使います」「困っている友達がいたら助けてます」「エコバックを使います」「ご飯を残さずに食べます」…。簡単明瞭な答えが、凝り固まつた頭を柔らかくしてくれました。

つまり、このSDGsは、これまで佛教が説いてきた教えの延長であり、曹洞宗が推進してきた「人権」「環境」「平和」そのものなのです。例えば禪の食事作法や精進料理はそのままSDGsの教材です。すでに行っているお寺での営み一つ一つがそこに通じているのではなく、上手く活用してみてはどうでしょうか。寺報や名刺にSDGsロゴマークを載らせてみることでも「知つてもらう」活動になり、取り組んでいる意思表示に繋がります。

地域にあるお寺で、地球のために、未来のために、そしてみんなのために、自分ができることは



何か?私は、世界基準のSDGsと曹洞宗の布教教化を掛け合わせた意義はその問い合わせてみても、年齢も性別も立場も超えて、地球上に生きる一人として、自分ができること。「行へと昇華させていくことができれば、一人ひとりの生き方が充実し、その生き方で未来をより良い方向に変えていけると思うのです。さあ、地域のお寺から、世界を変える取り組みを。お寺でSDGsを始めましょう!

一寺院一事業

大泉寺 副住職
新保 宗嗣

私が副住職をしています大泉寺では、毎年大晦日に「プロジェクトショーマッピング」を行っています。皆さんは、「プロジェクトショーマッピング」というものをご存知でしょうか? 建物にプロジェクトで作った動画を映すというのが一般的だと思います。大泉寺でも毎年大晦日の「除夜の鐘イベント」の時に、本堂の壁や鐘つき堂等に一年を振り返る動画を作成して写しています。

しかし、プロジェクトショーマッピングには建物だけではなく、動くものに映したり、「空間」に映したり、多種多様な形があります。例えば、お店の内装を一瞬で変化させたり、壁面に広告を写したり、飲食店で机の上に小さいコックさんを映し、料理を作っている過程をあたかも目の前で行って

いるかのように見せるというものもあります。プロジェクトショーマッピングとは、ただ単に映像を映すものではなく、今いる場所を全く違う場所のように変えたり、現実と非現実を融合できたり、空間をデザインできる方法なのです。

私がプロジェクトショーマッピングを始めた理由としては、単純に皆さんでもらえるからということです。言葉も場所も関係なく、分かりやすくセンターイベントを提供しやすいということにプロジェクトショーマッピングはとても向いているのです。

私はお寺という場所は、空間を作る

場所だと思います。静かな本堂で手を合わせる。仏様と思う。生き方を学ぶ。皆で同じ場所を囲んで話をします。そんな空間をデザインする所がお寺なのだと思います。辞書によれば、お寺とは「仏像を安置し、僧や尼が住み、仏道の修行や仏事を行なう建物」という

風に定義されています。しかし、私はお寺を、「何もなくても皆が集まりたいと思う場所」にしたいという希望があります。お寺といえば、お檀家さん以外には門戸を開いていない、お檀家さんでも葬儀や法事以外では来ないというイ



メージの方も多いのが現状です。今はお寺の拡張が必要な時代だと思うのです。講演会やライブ等のイベントにお寺を開放している所も増えてきました。空間を作り、常に新しい発想や方法を試すことができて皆が楽しめるという場所が、これからも必要とされるお寺なのではないでしょうか。

まだ私も勉強中ですが、プロジェクトを使って企画や遊びは無限にあります。例えば音楽ライブ中に背景を自在に変えながら音楽を聞くことができるイベント。仏像や絵画にプロジェクトショーマッピングをして視覚的に分かりやすく解説する。食べ物や商品等を一目でどんなものか説明できるマッピング。お寺で開催しているボードゲーム会で、

まずは皆さんにお寺に来てもらうこと。お寺を知つてもらうこと。これが第一だと思います。その手段の一つが私にとってはプロジェクトショーマッピングなのです。まだまだできないことも多いですが、一つ一つ出来ることを増やしていきたいと思っています。

お寺に勤めて短い私ですが、お寺はお檀家さん皆さんによつて支えられている事をとても感じています。これからもお寺に関わる皆さんと一緒に、楽しみながらお寺の縁を繋ぎつつ、新しいお寺の形を拡張していきたいと思います。

合掌

支部だより

相双



例会「涅槃会」「降誕会」はコロナ禍のため中止となりました。令和三年度の定例総会も昨年に引き続き書面議決となり、昨年度事業・決算報告並びに今年度事業計画・予算案が承認されました。猿田秀和師、服部悟由師、三村浩史師が退会となりました。

また、菅野隆久師、久田明幡師、渡辺秀憲師、阿部泰宗師、赤座卓道師、柳澤惇哉師の六名が新たに入会されました。今後の活躍を期待致します。



悟由師、三村浩史師が退会となりました。また、菅野隆久師、久田明幡師、渡辺秀憲師、阿部泰宗師、赤座卓道師、柳澤惇哉師の六名が新たに入会されました。今後の活躍を期待致します。

今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルスの影響により、今まで行つてきた活動のほとんどを休止せざるを得なくなっています。定期・臨時の事務局会議と定例総会のみの活動にとどまり、緑陰禪の集いは状況を見て開催するか延期するかを協議していましたが、残念ながら昨年に引き続き中止せざるを得ないという判断となりました。数少ない子どもたちへの布教の機会がなくなってしまい、会員一同非常に残念な思いをしている次第です。

今は各々の自坊、師寮寺でそれぞれに感染対策を講じながら檀務、布教にとりくんでおりますが、成道会や歳末托鉢の頃には状況も落ち着き、再び活動できることを切に祈り、日々精進していく所存です。



いわき支部では、本年度も基本的には新型コロナウイルス感染拡大防止のために対面での決議や事業は延期並びに中止という方向で、事務局決議がなされました。曹洞宗の推奨している、SDGs事業のひとつである「包括的で公平な質の高い教育を確保し、すべての人々に生涯にわたる学習機会を促進する」の目標のもと、シャンティボランティア会(SVA)の企



七月二十九日に会津若松市秀安寺様に於いて会津支部定例会を開きました。議題としては、自由研修として布教講習会を開催する事、両祖忌法要や托鉢の内容、支部旅行の希望等を話し合いました。また、県青年会執行部よりの報告もありました。各青年会会員一人一人の意見も出し合いで、活発な定例会になりました。現在コロナ禍ではあります。が、青年会会員全員が一丸となり、活発に活動していただきたいと思います。



支部だより



も子供達の感染予防の観点からもこちらも中止となりました。当会活動に長年ご尽力賜りました、田村市東光寺住職佐藤佳行師が令和三年六月二十二日に遷化されました。謹んで哀悼の意を表します。

は子供達の感染予防の観点からもこちらも中止となりました。当会活動に長年ご尽力賜りました、田村市東光寺住職佐藤佳行師が令和三年六月二十二日に遷化されました。謹んで哀悼の意を表します。



行師が令和三年六月二十二日に遷化されました。謹んで哀悼の意を表します。

僧見聞録

『貴重な体験』

伊達郡国見町

泉秀寺住職

中野俊之

私は令和元年十二月より、ご縁がありまして福島県宗務所で書記として勤めさせていただいております。私が宗務所で主に担当する業務は、各ご寺院様が申請する書類の精査と宗務所への進達です。私自身、自坊の住職となつて四年が経ちますが、恥ずかしながら宗務所職員となつてようやく宗制のことや状況によって必要になる申請などについて少しづつ理解を深めることができます。宗務所には、宗務所に申請する必要があります。各ご寺院様にはこ自坊の責任役員の任期切れにご注意いただきたく存じます。

また、同じように任期があるのが兼務住職です。兼務寺院の住職は最長五年の任期があり、任期の満了を迎える時には、住職の交代がなくとも改めて兼務住職任命申請をしなければなりません。兼務住職としておつとまません。

書記として勤めさせていただいている間で、年間事業や親交を深める場なども含め行う事が困難な状況にありますので、二度目となる連絡会並びに交流会をオンライン形式で行いました。

四月の緊急事態宣言もあり「花まつり」は中止となりました。並びに六月の「定例総会」は書面決議となり七月の「禅のつどい」

が延期致します。

今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルスの影響により、今まで行つてきた活動のほとんどを休止せざるを得なくなっています。定期・臨時の事務局会議と定例総会のみの活動にとどまり、緑陰禪の集いは状況を見て開催するか延期するかを協議していましたが、残念ながら昨年に引き続き中止せざるを得ないという判断となりました。数少ない子どもたちへの布教の機会がなくなってしまい、会員一同非常に残念な思いをしている次第です。

今は各々の自坊、師寮寺でそれぞれに感

染対策を講じながら檀務、布教にとりくんでおりますが、成道会や歳末托鉢の頃には

状況も落ち着き、再び活動できることを切

に祈り、日々精進していく所存です。

精進

第110号

令和3年9月30日

〔発行所〕

〒979-1201

福島県双葉郡川内村

上川内三合田29

長福寺内

曹洞宗福島県青年会

TEL0240-38-2068

〔発行責任者〕矢内大丘
〔編集責任者〕宍戸正俊

編集後記

一年前の精進二〇八号の中

で、曹洞宗復興支援室分室主

事である久間泰弘老師よりご

寄稿を賜りました、「新型コロ

ナウイルス影響下での災害対

応」が、まさに今続いている状態

ではないでしょうか。遠隔地か

らの支援活動、地域避難所とし

ての役割と行政連携など、知識

と精神の準備を常々怠らないよ

う、自身が今一度向き合わなければと痛感しております。置

かれている環境の中で、自分に

「何ができるのか」を問いかけ統

けようと思います。

全国各地で災害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上

げるとともに、皆様の安全と一日も早い被災地の復興を

お祈り申し上げます。

委員長 宮戸正俊九拝

きるというのは、それこそこの上ない貴重な経験であると思ひます。一日も早くこの状況が改善されることを願つて止みません。

私は令和元年十二月より、ご縁がありまして福島県宗務所で書記として勤めさせていただいている間で、年間事業や親交を深める場なども含め行う事が困難な状況にありますので、二度目となる連絡会並びに交流会をオンライン形式で行いました。

四月の緊急事態宣言もあり「花まつり」は

中止となりました。並びに六月の「定例総会」は書面決議となり七月の「禅のつどい」

が延期致します。

今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルスの影響により、今まで行つてきた活動のほとんどを休止せざるを得なくなっています。定期・臨時の事務局会議と定例総会のみの活動にとどまり、緑陰禪の集いは状況を見て開催するか延期するかを協議していましたが、残念ながら昨年に引き続き中止せざるを得ないという判断となりました。数少ない子どもたちへの布教の機会がなくなってしまい、会員一同非常に残念な思いをしている次第です。

今は各々の自坊、師寮寺でそれぞれに感

染対策を講じながら檀務、布教にとりくんでおりますが、成道会や歳末托鉢の頃には

状況も落ち着き、再び活動できることを切

に祈り、日々精進していく所存です。



いわき支部では、本年度も基本的には新型コロナウイルス感染拡大防止のために対面での決議や事業は延期並びに中止という方向で、事務局決議がなされました。曹洞宗の推奨している、SDGs事業のひとつである「包括的で公平な質の高い教育を確保し、すべての人々に生涯にわたる学習機会を促進する」の目標のもと、シャンティボランティア会(SVA)の企



七月二十九日に会津若松市秀安寺様に於いて会津支部定例会を開きました。議題としては、自由研修として布教講習会を開催する事、両祖忌法要や托鉢の内容、支部旅行の希望等を話し合いました。また、県青年会執行部よりの報告もありました。各青年会会員一人一人の意見も出し合いで、活発な定例会になりました。現在コロナ禍ではあります。が、青年会会員全員が一丸となり、活発に活動していただきたいと思います。

